

講演会

開場:午後6時30分 開演:午後7時

石垣市民会館
中ホール

原発事故から学ぶ

～万一の台湾原発事故にどう備えるか～

京都大学 原子炉実験所 助教

こ いで ひろ あき
小出 裕章氏

1949年 東京都生まれ

1972年 東北大学工学部原子核工学科卒業

1974年 同大学院修士課程修了後、京都大学原子炉実験所助手
(現在は助教)に就任 専門は放射線計測、原子力安全

画像:ウイキメディア・コモンズより

福島原発事故から4年。いまだに収束の見通しは立っていません。

もし、またどこかで原発事故が起きたら……。

子どもたちや妊娠中の女性の安全を確保し、

農畜産物などの被害を避けるためには、何が必要でしょうか？

福島と同型の原子炉を持つ台湾原発からの、

拡散シミュレーションなどを使い、その対策を考えます。

入場無料

2015年 **3月21日(土)**

開場:午後6時30分 開演:午後7時
場所:石垣市民会館中ホール

主催:特定非営利活動法人 石垣市民ラボ 市民放射能測定所

協賛:ちむぐる 東日本大震災・福島原発事故 被災者・避難者支援ネットワーク石垣島

問い合わせ:石垣市民ラボ 0980-87-5487 ishigaki_lab@alpha.ocn.ne.jp

講師紹介 京都大学原子炉実験所 助教 小出 裕章氏

小出さんは原子力の平和利用を信じて原子核工学科に入学されましたが、学ぶなかで、原子力発電所が貧しい過疎地で建設されるなど実態を知ることになり、伊方原発裁判、人形峠ウラン残土問題など、一貫して住民運動の側に立ち、専門家の立場から原子力の危険性を訴えてこられました。特に、福島原発事故以後は、全国各地での市民講演、執筆、報道番組への出演など、多忙な毎日をご過ごされています。また、台湾原発の事故が沖縄に与える影響に関する2001年の研究は、その後琉球新報で報道され、県内に大きな反響を呼びました。小出さんは本年3月末に長年活躍された京都大学を定年で退任されます。京大時代の最後の市民講演会の場所に石垣市を選んでくださいました。

福島の事故をふり返る

200km以上離れた地域にも影響

福島第一原発事故の影響により、離れた地域でも水道水や一部の食材から暫定基準値を超えたものが見つかりました。原発事故を風化させることなく、必要な備え、対処を学ぶ機会が大切です。講演会への皆様のご参加をお待ちしています。

水道水と牛肉の例



2011年3月23日、東京都や千葉県でも浄水場の水道水から乳児の暫定基準値を越え検出。水道局は活性炭の量を増やすなど放射性物質の除去に早急に対応した。



岩手・秋田・山形など6県で暫定基準値を越え一時出荷制限。全国で流通し大きな問題となった。畜産業界が求めている全戸・全頭検査への対応の遅れが原因の一つ。



水道水中の放射性物質の検出と飲用制限

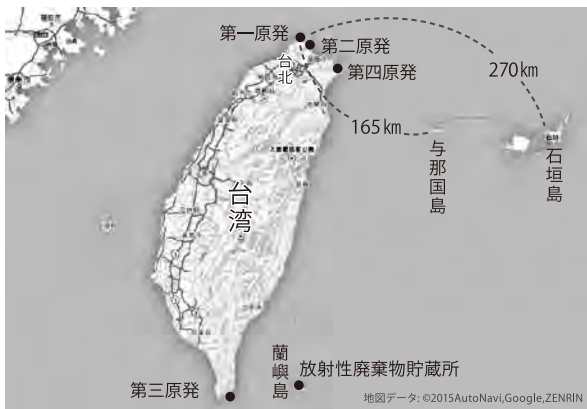
出典：国立保健医療科学院「水道における放射性物質の課題」

台湾第一原子力発電所



事故を起こした福島原発とほぼ同時期（1978年）に作られた同型の沸騰水型原子炉がある台湾第一原子力発電所。

台湾の原発の位置と距離



台湾電力会社が3カ所で計6基を稼働。建設中の第四原発は2014年4月与党・国民党が建設を凍結する方針を発表した。

原発事故から学ぶ ～万一の台湾原発事故にどう備えるか～